

2020.9.26

紙つぶて

スウェーデンの新型コロナウイルス対策が、正当な評価を受けられる状態になってきた。私には現地に親しい先輩がいて、状況をよく教えてもらっている。スウェーデンは、コロナ対策は長期戦という考えから、できるだけ持続可能な方法をとってきた。都市封鎖(ロックダウン)はしない。大人数の集会だけ禁止、あとは個々人が距離をとればマスクはいらぬ、という考え方だ。学校の休校もないし、マスクなしでカフェを利用したりと、かなり従来の日常に近い生活を送っている。日本人の「自粛疲れ」からのヤケツパチな行動を見ていると、持続可能性を重視したスウェーデンの賢さがよくわかる。現在は、人口当たりの死

スウェーデンに学ぶ

水島 広子



者数が日本を下回るようになり、死者ゼロの日も少なくない。新規陽性者も減っている。以前「死者が多い」と注目されたのは、コロナ対策というより高齢者施設の在り方に問題があったようだ。なぜこんな大胆な独自路線を歩めたのか。もともと政府への信頼度が高いこと、担当のアンデシュ・テグネル博士が徹底的に情報公開して「何も隠さなかつた」ことが大きいと思う。

世界保健機関(WHO)もついに「スウェーデンを参考に」と言い始めたようだ。ロックダウンには数々の副作用がある。長期戦であれば、そういうことも当然考えるべきだ。スウェーデンからいつも多くを学べる。

(精神科医)